

令和4年3月

世田谷区立緑丘中学校

校長 高山 知機 様

世田谷区立緑丘中学校

学校関係者評価委員会

令和3年度学校関係者評価委員会報告書

本年度の学校関係者評価を以下のようにまとめましたので、報告いたします。

学校関係者評価委員としては「子どもたちがより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取組み」に重点を置き、評価を行った。まず緑丘中学校の基本的考え方として、「学校にかかわるすべての人の人権が尊重され、学校は生徒のためにある」、さらに「生徒が将来への夢や希望を持ち続け、自己実現に主体的に取り組める学校」、「生徒、保護者と教職員が信頼関係で結ばれ、地域社会に応援してもらえる学校をめざす」が挙げられている。今年度、「学校経営方針」、「令和3年度に向けた改善策」、「生徒・保護者・地域を対象としたアンケート調査結果」「自己評価集計」「学年主任や各主任の先生方のヒアリング」などを踏まえてその評価を行った。以下、令和3年度の「学校経営方針」の基本方針と方策に沿って、その項目ごとに所見を述べる。

I. 基本方針と方策について

(1) 学力向上と「世田谷9年教育」で培った知識・技能を活用できる能力の育成

「学校経営方針」においては、「せたがや11+」の理念と令和3年度より完全施行される「新学習指導要領」に掲げられる学びの連続性を意識した授業計画、言語活動、体験的な学習活動、学校図書館や近隣の図書館との連携を図った教育環境の整備、授業力向上のための研修の実施などが上がっている。

上記に関連する生徒アンケート項目で学習指導についてみると、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」生徒全体90%（前年度84%）、「授業では生徒の話し合いや発表などの機会がある」については、92.7%（前年度87.5%）と前年度に比べて高い評価となっている。これらは、学校経営方針と方策にある全教育活動に言語活動や体験的な活動を取り入れ、表現する授業の展開を実施した成果といえるかもしれない。

特に今年度はコロナ禍2年目となり、昨年度からの要望としてICTの活用が上がっていた。それに関連する項目として「先生は映像やタブレットなどのICTを利用している」では、88.2%（前年度76.4%）が肯定的な評価となっている。先生方のヒアリングでは、ICTの専門講師が定期的に来校、教員の研修機会があり、スキルアップに繋がっているとのことであった。その成果が前年度に比し表れていると考える。昨年度はタブレット配布も不十分

であったが、今年度は新たな研修の機会を活用しての教育効果が読み取れる。一方、映像やタブレットの利用は生徒及び教職員も目が疲れると聞いた。養護の先生からも生徒たちの視力低下が指摘されている。今後は、児童生徒の利用時間と視力維持に配慮しつつ、ICT教育の活用に取り組んでいただきたい。

生徒と先生との日常的な関係性として「先生たちは生徒が相談しやすい」の項目については、生徒全体で 63.1%であった。進路選択時期の 3 学年は 67.0%（前年度 78.8%）であり、分散登校などもあったためか、前年度に比べて低い結果となった。先生方からはいつでも相談に来て良いという声が聴かれたが、それが児童生徒に十分に周知されていないのではと推察する。相談しやすい方法や時間帯などについて改めて周知する必要があると感じた。担任だけでなく、副担任や各担当教科、進路指導なども 1・2 年生の時から希望者の面談機会を増やし、多数の先生方とのコミュニケーション機会が確保されればと願う。

学力向上については新たな取り組みの成果が伺えるが、「せたがや 9 年教育」や「せたがや 11+」などの実現については、コロナ禍で小・中・高さらに小学校就学前 2 年間の子どもたちの交流など、その機会をつくることがなかった。それらについての評価は今後に譲ることにしたい。

（２）体力の向上と健康に対する意識の高揚

アンケート調査の結果、関連する項目を見ると、生徒は「私は体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」69.7%、「私は体調管理に気を付けている」81.3%、保護者は「子どもの健康に気配りしている」97.2%、「子どもは体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」70%とあり、体力や健康に関する関心度は高いことがわかった。

① 新体力テスト等を活用した、体力向上・健康に対する啓発指導

文部科学省の実施要項により、令和 1～3 年で新体力テストの結果が下降している項目が多いことを踏まえ、学校として授業だけでなく、日頃から各々で進められる体力向上のアドバイスをすることで健康維持・生活習慣の見直しなどに繋げることも大切だと考える。今後、コロナ禍においても子どもたちの体力や健康に関する意識を高める、日常生活において実践できる運動などの試みを行うことが重要だと考える。

② 総合的な学習の時間等を活用した、食育の充実

コロナ禍により、調理実習も行えない状況が続いているが、『中学生にとっての食育』の大切さを知ること、自身の健康管理や改めて食事に対する感謝の気持ちを育み、それが食への興味や給食を大切に作る気持ちを育み、廃棄することへの阻止にも繋がるのではないと思う。

③ 規則正しい健康的な生活を送るための生活指導の充実

自宅と学校の往復時のかばんの重量については、身体への負担を心配する声も多くあったが、学校側ではその重量を 6 キロ程度に抑えるという提案も出されており、教科書等は自分で置いていくものと持ち帰るものを選択し、登下校するよう指導していると伺った。身の回りの持ち物の整理整頓やそれが及ぼす身体の影響を考えることで自己管理の力が向上す

ることに繋がれば良いと感じる。

また保護者の自由記述では、空調に関しての意見も多くみられた。学校側としては空調の定期的な清掃など環境改善に向けての取り組みをしているとのこと、喘息など気管支の弱い生徒たちもいることから、子どもたちの衛生面など環境改善に向けた取り組みを続けていただきたい。その取り組みについてもホームページで紹介するなど保護者に周知していただくよう望んでいる。

新入生に関しては、入学時から学校との関わりがあまりにもなく不安を感じる保護者が多いと思われる。学校側からは、「気になることがあれば遠慮なく学校に電話、もしくは生徒手帳に質問事項を記入し提出してください」とのことであった。コロナ禍でもあり、日頃から学校と緊密な連絡を取り合うことで、子どもを含めた保護者の不安や誤解をなくせるのではないかと考える。

(3) 人権を尊重した教育活動の推進

① 人権教育プログラムを活用した校内研修の実施

東京都教育委員会が教員等に人権教育を指導するための実践的な手引きとして「人権教育プログラム（学校教育編）」を作成し、公立学校に配っている。緑丘中学校においては、1学期に「体罰などの禁止」について生徒に対する体罰、不適切な指導、暴言など校長が研修を行い、スローガン「ストップ！6秒！冷静に！」を決めたとのことである。これはHPの学校概要→いじめ防止基本方針のポスターに載っている。また、2学期には「私的なメール、SNSなどの禁止」をテーマに生徒等との私的連絡手段として使用しないことなど、過去の事例等を題材として校長が研修を行ったとのことである。従って、今年度の改善策に掲げた教員の人権意識の高揚を図ったと評価できる。

② 道徳の時間を活用した、継続的な心の教育の実施

クラス毎や学年全体での道徳授業を実施、さらに道徳授業地区公開講座で、1年生は「友情、信頼」、2年生は「希望と勇気、強い意志」、3年生は「命の尊さ」をテーマに心の教育を実施した。これらはHPで報告されている。

生徒アンケートから「仲間や友達を大切にしている」「あいさつを大切にしている」はどちらも93%を超える肯定的評価であるので、相手を大切にする心が育っていると思われる。しかし、「悪ふざけやトラブルなどがあると注意し合える」は60.3%で昨年度とほぼ変わらない結果となった。また、教職員の自己評価から生徒の道徳的心情や判断力、実践力が育っていると感じていることが分かった。

③ 対処的な生活指導における教職員間の綿密な連携構築

生徒アンケートから「私は学校のルールについて考えて行動している」84.9%、「先生は、学校のルールを生徒に考えさせて指導している」83.6%、「私は先生が指導したルールについて理解できる」82.8%といずれも肯定的評価となっている。保護者アンケートで後者2つの同様の項目はそれぞれ62.6%、70.7%でどちらも昨年度より評価が上がっている。

教職員の自己評価から、学校の決まりや基本的な生活ルールが教職員に共通理解され、

生活指導上の課題には組織的かつ迅速に取り組んでいるとのことで、昨年度より 20% 肯定的評価になった。従って、教員の情報共有化が進んでいると評価できる。自由記述から生徒は校則の細かい部分で教員間の認識のずれがあると感じていることが分かった。また、校則変更の要望があるようだ。

教職員のヒアリングで、教職員は状況を見ながら段階的に校則の変更を行なっているとのこと、生徒たちは要望、疑問があれば、生徒会を通すか、直接、先生たちへ投げかけて欲しい。来年度も継続して教職員間の情報共有化を行っていくことを要望する。

(4) 伝統・文化に関する教育の充実を視野に地域と信頼関係で結ばれた学校づくりの推進

「伝統・文化に関する教育」に関する取り組みがほとんどなく、何らかの形で力を注ぎたいところだが、まずはコロナ禍で止まってしまった日常を再開することが先決であり、行事中止などにより関わりが減少した部分に対して丁寧な説明が情報発信でも必要になっていると考えられる。

① 学校・学年・学級だよりなどを通じた、適切な学校情報の発信

保護者 89.0% (前年度 85.1%) が「本校は、学校・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している」とし、地域 95.1% (前年度 97.8%) が「学校からのお知らせ(学校だより)などにより学校の様子が分かる」と回答している。また、保護者 87.7% (前年度 67.1%) が「本校は HP やメールなどで保護者に情報を提供している」とし、地域 72.5% (前年度 66.7%) が「学校からのお知らせや学校生活の様子がわかる情報が掲載されている」と回答している。評価が少し下がった項目もあるが、全体的に上がっていることが明確に見て取れる。学校情報の発信は単発では成り立たないため日常的な発信が行われた成果だったと想像でき、この評価を大いに讃えたい。この結果に続き、次の提案として情報内容と発信方法の工夫をお願いしたい。

生徒や保護者による自由記述欄に「荷物が重く学校へ置いて帰ることが出来ないのか？」という記入が多く見られたことが理由である。今回のアンケートによる教職員への聴き取りによると、この件については保護者や生徒へ幾度も伝えていたと伺った。アンケートには、その他に行事中止の理由やその代替え案の進捗状況などの伝達に疑問を持つ意見が多く寄せられていた。情報発信がされているにも関わらずこの状況である。情報内容や発信場所、そして情報交換の機会を持つなど、より充実した内容の情報を発信し実りのある関係を築いていただきたい。

② PTA や学校経営協力者との連携の充実

コロナの影響が続いており、今年度も学校運営委員会、学校協議会、合同学校協議会の開催は難しく、ほぼ活動ができていない状況にある。昨年度の課題であった学校経営協力者に関する情報提供を目的とした広報に取り組むことを継続してほしいが、まずは会議の開催など活動の再開が先決であると考ええる。

コロナ禍での運営も 2 年が経過しており、オンライン会議などを導入した活動の確立を推進するべきである。(また学校経営協力者に技術面で参画してもらうなども連携手段の一

つかと思われる。) コロナ禍での安定した活動の確立が可能になると、学校運営、生徒や保護者の活動も充実し、良い循環で繋がっていくと願うところである。

③ 特別活動などを活用した、地域催事への参加の奨励

学校や子どもの育ちにとって地域や多世代での交流は不可欠であるが、今年度もコロナの影響を受けて地域催事の中止が相次いでおり、活用や参加も不可能な状態になっている。そこで地域の重要な拠点である学校に進めていただきたいのは、こちらから学校を開き、地域と関わる機会を増やすことである。このことにより地域催事の開催につながると期待したい。コロナ禍 2 年目となる現状において地域や保護者が行事などに参加する機会を増やすわけだが、これは学校行事や特別活動に対する保護者、生徒、地域全体の強い要望であるとアンケートからも伺えた。今年度は前年度より行事も多く、配信も行われるなど確実に前進しており、来年度はさらなる飛躍と今後の地域におけるリーダーシップをぜひ期待したい。

(5) 公的機関としての学校組織の運営

①物品管理・物品購入の適正な執行と明確な運用

この項目については、昨年度の事務用品管理などについて肯定的評価が低かったこともあり、改善を要求したところ、今年度は事務に対する肯定的評価が 91.7%と各段に改善されたことを評価する。物品購入についても適正な執行と明確な運用が行われていると評価する。

②給食費、教材費等、私費会計の適正な執行と監査業務の徹底

保護者へのアンケート項目には上記に相当する項目はないが、各学年や部活動での会計報告については保護者間や PTA で問題になることはなかった。今後も校外学習などの集金がある場合には、今まで通り会計報告を保護者へ明示していただきたい。

④ 決算報告書、会計事務に関する説明責任

学校評価に関するアンケート項目や、自己評価の項目に該当する記載はないが、説明責任とあることから評価委員への説明項目に追加していただくよう要望する。

II. 共通項目アンケートの評価

共通項目アンケートについては、生徒・保護者・地域の方々と 3 つに分けて評価を行った。令和 3 年度の「学校関係者評価アンケート」の回収率においては、生徒は 1 年生 (148 名) 97.0%、2 年生 (140 名) 91.0%、3 年 (113 名) 92.0%であり、全体の回収率の平均は 93.3% (前年度 91.6%) でおおむね良好であった。

① 生徒のアンケートより

全学年を通して「学習面」に関する肯定的な評価として、「先生は課題について自分で考えたり友達と考えたりする時間を授業のなかで取っている」92.2%、「分かりやすい授業をしている」の項目では 88.2% (前年度 85.5%) など学習面については前年度同様、高評価である。これらの結果から教員の学習指導に工夫があり、生徒の学習に対する興味関心も

高く、生徒には理解されていることがわかる。しかし「提出物やテストなどをわかりやすく評価している」の項目では、「あまり思わない」「思わない」「分からない」との回答もあり、この項目については前年度も同様の傾向が見られた。先生は説明しているが、児童生徒には伝わっていない面もあるかもしれない、子どもたちを一人ひとり評価する基準などの透明性など、細心の工夫や配慮が必要と思われる。

「生活指導」については、「先生が指導したルールについては理解できる」82.8%（前年度 79.2%）、「学校行事は楽しい」90.0%（前年度 83.4%）、「学校行事は達成感がある」88.8%（前年度 79.0%）と前年度の行事が中止になったことから考えると、今年度は肯定的な評価が出ている。しかし依然として修学旅行が中止であったり、行事についての残念感は生徒だけでなく、保護者からもその声が出ており、制限されたなかでの実施可能性について生徒や保護者に伝えていく必要性が求められる。

「進路指導」については、「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」78.9%（前年度 80.0%）、「学校は進路や将来の仕事に関する情報を提供している」83.5%（前年度 73.7%）で、前年度と比べて高い数値が出ている。今後も継続した進路指導（生徒の進路選択肢の機会や場の提供）を行っていただきたい。

② 保護者のアンケートより

保護者アンケートでは、1年生保護者 80.0%、2年生保護者 74.0%、3年生保護者 71.0%であり全体の回収率の平均は、75.0%（前年度 69.6%）で前年度に比べて高い傾向がみられた。これはコロナ禍1年目よりもさらに学校に対する関心が高まった表れかもしれない。

学習指導について「分かりやすい授業」49.9%（前年度 43.9%）、「黒板の書き方やプリントなどを工夫」39.3%（前年度 36.3%）など、項目によって若干の差がみられる。特に1年生の保護者の「本校は子どもや保護者が相談しやすい」47.0%で低く、1年生保護者にとって、コロナ禍での中学校生活に関する不安があったのではないかと推察される。昨年度も1年生保護者の不安感是他学年に比較して高くなっていた。やはり新1年生については、保護者との交流の機会を増やすなどの工夫が必要かと思われる。先生方へのヒアリングでは、学校にどんなことでも電話や連絡をしてくださいと伝えていたと伺った。その教員側の声が保護者に伝わるような工夫、HPでの配信を1年生向けに行うなどが必要かもしれない。

学校運営について「本校は学校・学年だよりなどで保護者に情報を提供している」84.8%（前年度 86.5%）など、保護者への情報提供についてはおおむね高評価である。今年度はコロナ禍2年目ということもあり、保護者の理解を求める機会が少なかったことも起因すると思うが、HPなどの充実で保護者の不安や求める情報を掲載するよう、努めていただければと思う。

③ 地域の方々のアンケートより

地域の方々のアンケートは、99名、43.0%（前年度 47.5%）であり、前年度に比べて若干低い回収率となった。地域の方々は、「学校からのお知らせなどにより学校の様子が分かる」95.1%（前年度 97.8%）、「学校は安心・安全な学校づくりを進めている」85.3%（前年

度 84.8%) など「地域の学校」として肯定的な評価をしている。自由記述として、コロナ禍で学校を訪ねる機会がほぼないことから、なかなか様子が把握できないが、地域との避難所訓練や「学び舎」で情報は見ているとの意見が上がっていた。今後も継続した学校だよりやHP を活用した地域への広報も期待したい。正門前の掲示板には美術部員製作の作品が展示され地域を歩く人たちに季節の訪れや行事を感じさせる取り組みも継続を願うものである。

Ⅲ. 自己評価について

本年度の学校経営方針は校長より明確に提示され、それを教職員が共有している点は評価できる。昨年度、先生方の自由記述で多く出た「鍵の管理」問題については、今年度改善案に教職員のモラル向上を図れるよう研修を通じて徹底するということが盛り込まれたが、主任教諭へのヒアリングでは研修は特に行われていなかった。しかしその都度呼びかけを強化したということであった。昨年度の鍵の管理に関する肯定的評価は 31.6%で改善を要求したのだが、今年度の肯定的評価は 22.7%とさらに低下している。呼びかけの強化だけでなく具体的な対策が今以上に必要であると思われる。

また昨年度からのもう一つの課題として校務分掌や行事委員会の担当に不公平感があることが挙がっていた。今年度も同様の傾向があり、業務分担の公平性と適切化がさらに求められている。ICT 環境については、W i f i 環境がいまだ整備されていないとのことで、緑丘中に限ったことではないようだが世田谷区としての対応を早急をお願いしたい。土曜講習については、勤務時間外の出勤というイメージがあり負担感があるようだ。実施するにあたり、保護者や学校運営委員会への相談も考慮にいれて対応を考えていただきたい。

コロナ禍において、昨年より多くのことが改善されてきているように感じる。学校側、教職員の生徒に対する思いもうかがった。多くのことを考えて学校運営を行っていることをもっと保護者に発信する方法を明確にすると良いと感じた。

Ⅳ. 独自項目を踏まえた学校関係者評価委員会としての総合所見

学校関係者評価アンケートのなかでの独自項目としては、緑丘中学校の生徒・保護者の方々への 10 項目（仲間を大事にしている、挨拶を大事にしている、健康に気を配っているなど）地域の方々へは 4 項目（地域での子どもたちの挨拶など）、それに加えて自由記述を設けている。

学習指導については、日頃から教員が努力され、分かりやすい授業の工夫をしておられることは充分把握できた。特に今年度はコロナ禍の 2 年目ということもあり、昨年度よりは落ち着いた ICT 教育の取り組みが実現したかと思う。依然として行事などについては試行錯誤しながらも多くの工夫や努力を積み重ねられたことが教職員のヒアリングからもうかがえた。合唱コンクールや体育祭の実施など学校側の取り組みも評価に値する。一方で声が聞こえにくかった、体育祭で子どもの活躍が十分に把握できなかったなどの意見があった。行事の実施やオンラインであっても保護者とその行事を共有できたことは前年度よりは進ん

でいる。

コロナの感染予防、特に2年目のオミクロンの拡大は子どもたちにも影響があり、学校側の消毒作業など従来にない負担増であったと推察する。そのなかで生徒・保護者・地域の方々のアンケートはどの項目においても、おおむね高評価であった。しかし一方で、修学旅行などに代表される行事の中止など、保護者からの不安・不満もきかれた。これは生徒、保護者の意見も聞きながら今後の課題として取り組み、改善していくことと思われる。

組織的・継続的な改善としては、保護者、地域からも高評価を得ている「学校だより、みどりがおか」は、これからも学校内外への発信媒体として継続を願うものである。地域に信頼される学校づくりにおいては、これまでの実績を踏まえて地域の方々との連携は継続しており、コロナ禍が収束すれば、また共同の行事や取り組みは復活するものと期待する。

コロナ禍2年目となり、高校進学に向けての指導、児童生徒同士の話し合いなど工夫された努力は続けられている。卒業生のショパンコンクールでの成果は、在校生及び卒業生に大きな力を与えたものと思う。

今年度は新学習指導要領や主幹教諭、主任教諭の配置など、学校にとっての新たな局面が見られた。今後、これによってどのような成果がもたらされるか、これからの取り組みに期待したい。

令和3年度 世田谷区立緑丘中学校

学校関係者評価委員会

委員長 太田由加里

委員 徳田 めぐみ

委員 松田 麻美

委員 馬目 ゆう子

委員 武藤 朝子